

ドキュメンタリー
映画

ムスタシュレグ/東洋を索めた人 アンリ・コルバンのドキュメンタリー映画

監督：マスウード・ターヘリー

「イスラム教は、法律的、司法的な解釈、すなわち表面的な(ザーヒル)宗教に限定されるのかというジレンマに直面している。そこで肯定的な答えが出された場合、哲学について話す余地はほとんど残っていない」。

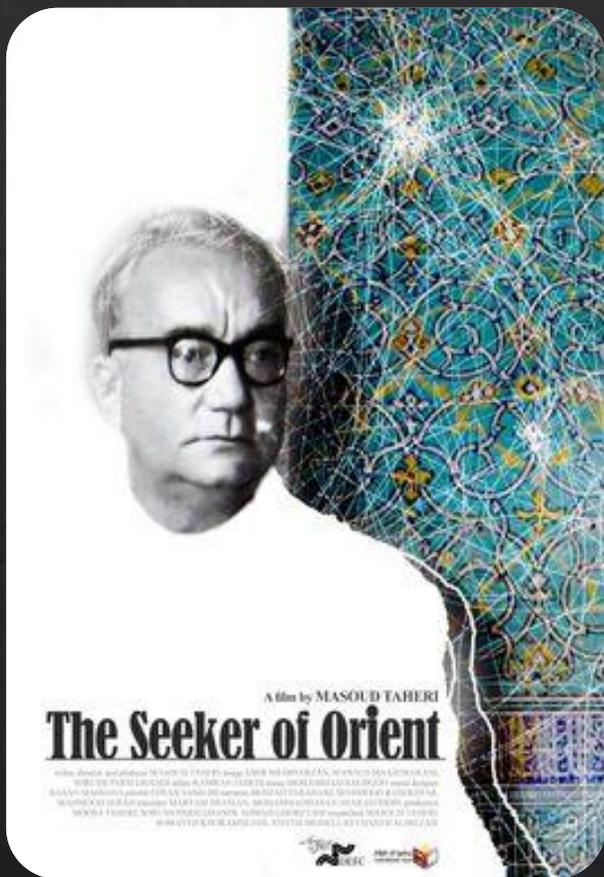
Henry Corbin. *Histoire de la philosophie islamique*. Paris: Gallimard, 1986., pp.51-52

روایتی از زندگی و اندیشه های کرین

سستیرو

تهیه کننده، نویسنده و کارگردان: مسعود طاهری
A film by Masoud Taheri

THE SEEKER OF ORIENT



本映画『ムスタシュレグ』は、2018年2月7日、当時のフランス大使フィリップ・ティエボーが、テヘランのイワン・シャムスホールに出席した際に上映された。翌日には、イラン国立図書館で、幾人かの思想家と知識人を交えた映画批評会が開催された。当初の予定では、この映画はソルボンヌ大学や世界中の様々な研究所、大学等で上映されるはずであったが、新型コロナウイルスのパンデミックにより、すべての予定がキャンセルとなった。その間、本映画はイランの国営放送のチャンネル4で3度放送された。さらに、BBCペルシア語放送を含む様々なブログやウェブサイトが、この映画の紹介と批評を行った。パンデミック終息後は様々な大学で映画の上映が行われている。

インタビュー：モハンマド＝アリ・アミール＝モエズィー、クリスチャン・ジャンベ、ピエール・ロリー、ダニエル・プルー、ヤン・リシャール、ジャン・クロード・キャリエール、ミシェル・カッセ、ヘルマン・ランドルト、セイエド・ホセイン・ナスル、ダリウシュ・シャイガン、モスタファ・マレキアン、バフマン・ザキプール、他多数。

ジャンル	テーマ	言語	字幕	時間	値段 (税込)	コード
ドキュメンタリー	哲学 歴史 思想	音声: フランス語 ペルシア語	英語	110分	¥ 3,500	SHPF003

制作 & 著作権: チェヘルダード・フィルム社

配給: 株式会社Kimiya

「ムスタシュレグ」という単語は、現在のアラビア語やペルシア語で、「東洋学者」（オリエンタリスト）という意味で使われている。一般的な認識によれば、「東洋学者」とは非欧米（具体的にアジアや中東）の人々の文化、言語、思想、芸術、宗教などについて研究する人である。さらに、オリエントに関する多くの研究が、直接的または間接的に西洋諸国の政治、宣伝、軍事等の目的と関連しているため、一般的に「東洋学者」に対して肯定的な見方はされていない。このような認識は、特にエドワード・サイード（1935-2003）の『オリエンタリズム』の出版以降、さらに強まっていった。しかし、オリエンタリズムや「東洋学者」の遺産が必ずしも否定的な側面を持つわけではなく、彼らの多くの研究は他

の文化や文明の理解に大きく貢献している。

「ムスタシュレグ」という単語は、元来、古典アラビア語やペルシア語で「精神的東洋を索める人」という哲学的かつ神秘主義的な意味を持っており、「精神的東洋」という表現は、人間の霊魂や意識の深層を意味する。つまり、人が自己の真実を観察できる状態や場所を指している。このような「精神的東洋」へは、神秘的な体験や直感を通じて到達できる。したがって、イスラーム神秘主義の伝統では、「ムスタシュレグ」は自己の意識の内面を探求し、「精神的東洋」や「真実の自己」を発見する人を意味する。

アンリ・コルバンは、現代的な意味でヨーロッパ（フランス）の「東洋学者」であり、イスラームの伝統や文化を研究するために最初はトル

コ、その後、長年にわたりイランで生活し、現代イラン思想に大きな影響を与えた。しかし、同時に彼は古典的な「ムスタシュレグ」の意味でも、「精神的東洋を索める人」であった。コルバンの強い神秘主義的傾向と、近代性やニヒリズムに対する彼の哲学的批判は、彼が単なる東洋研究者ではなく、「精神的東洋」への道を見つけ、ニヒリズムを超えようとする哲学者であったと言える。

イラン人監督、マスウード・ターヘリーによる映画「ムスタシュレグ」は、アンリ・コルバンの人生と思想を物語っている。この映画では、歴史的な出来事やさまざまな専門家の発言を通じて、コルバンが東洋研究者としてイランに行き、「精神的東洋」への旅を始め、そして完了させた過程を描いている。



アンリ・コルバン
Henry Corbin 1903-78

現象学，比較哲学，イラン・イスラーム思想研究で名高い。歴史研究によってイスラーム学者・東洋学者とされるが，その比較哲学において西洋とイスラームの哲学の啓示現象の解釈学を探究，体系研究としてニヒリズムと聖俗主義の克服をもとに人格の完成を思索した。彼の解釈学・現象学・比較哲学はフランス，イタリア，イラン，日本，アメリカで再評価されている。

生涯

パリに生まれ，1922年にソルボンヌ大学入学，エティエンヌ・ジルソン（1884-1978）やエミール・ブレイエ（1876-1952）に哲学史を師事した。25年に哲学で学位取得後，28年に16世紀スペイン最大の詩人・神学者ルイス・デ・レオン（死亡 1591）の研究で高等研究実習院を終了，以前からアラビア語やサンスクリット研究をしていた国立東洋語学校でアラビア語・ペルシア語・トルコ語の学位も取得。ルイ・マスィニョン（1883-1962）にイスラーム学の手解きを受け，スフラワルディー（1154-1191）の『黎明の叡智』のリトグラフを託され，歩む道が定まる。未刊行の古典アラビア語・ペルシア語文献にジルソンの文献学的手

法を用い，新境地を拓いてゆく。

30年のドイツ留学でカール・バルト（1886-1968）神学を学び，32年に『ローマ書』の一部を仏訳した。34年にフライブルクで初めてマルティン・ハイデガー（1889-1976）を訪れ35-36年のベルリン滞在中にハイデガーの著作の翻訳を準備した。37年に「ヘルダーリンと詩の本質」，38年に『形而上学とは何か』と『存在と時間』の一部を仏訳した。これらはバルトとハイデガーの初の仏訳であり，ジャン＝ポール・サルトル（1905-80）などに影響を与えた。37年からアレクサンドル・コイレ（1892-1964）の後任として高等研究実習院でルター派神学・解釈学を教え（54-74年はマスィニョンの後任），39年までにスフラワ

ルディー研究を 2 冊出版, 45 年まで
イスタンブールとテヘランのフランス
学院に勤務した際にスフラワルディー
について本格的な研究・著作校訂を出し
た。以降パリとテヘランを往来, 55
年から 73 年までテヘラン大学やイラ
ン王立哲学アカデミーで教え, イラン
人思想家やシーア派ウラマー (20 世
紀の最重要なクルアーン注釈者・哲学
者モハンマド・ホセイン＝タバータバ
ーイー師 (1904-1981) など) と交流
した。49 年から 78 年までエラノス会
議に参加, 62 年から諮問委員を務め
た。生涯にわたり, ペルシア宗教思想
や未紹介のシーア派思想家たちの研究,
写本の校訂, それに基づき比較哲学を
目指した。

思想

西洋哲学史で 12 世紀以降スコラ哲
学への影響が終焉し途絶えたとされた
イスラーム哲学がペルシアを中心に創
造的な営みを続けていた歴史を描く
『イスラーム哲学史』はコルバンの思
想史的貢献である。古代ペルシアの思
想がシーア派に流入, イブン・スィー
ナー (980-1037) からスフラワルデ
ィーに至る〈東洋哲学〉の歴史観は批
判されるが, イブン・アラビー
(1165-1240) 神秘主義とシーア派神
学が哲学化しつつ合流してイスファハ
ーン学派という哲学のルネサンスを興
し, 現代まで哲学の伝統が続くという
歴史像は概ね受容された。同学派とそ
の前後に位置する思想家群の文献研究
は思想史・イスラーム学への最大の貢

献である。哲学者として古代中世ペル
シア思想, 特にスフラワルディー哲学
によってハイデガーに至る西洋哲学の
諸問題を乗り越える試みは極めて独創
的と言える。

コルバンはハイデガーと異なる存在
解釈をイスラーム神秘主義の「非顕現
の開示」や現代イランまで古典哲学の
典型として継承されたイスファハーン
学派の代表モッラー・サドラーの象徴
解釈学から哲学に持ち込む。『イブ
ン・アラビーのスーフィー思想におけ
る創造的想像力』のスフラワルディー
とイブン・アラビーの比較研究によっ
て, ルネ・デカルト (1596-1650) 以
降の西洋哲学史で否定的に捉えられた
想像力を創造的器官へ読み替えた。そ
れは身体的感覚と同じ資格で宗教的な

根源現象が与えられ、経験的感覚と概念的思考とを媒介し像を創出する場である。彼はこれをイマージュ界 (mundus imaginalis) と名付け、その基礎に天使論を提唱、これは現象学や元型心理学などに受容された。

スフラワルディーはイマージュ界を天使界または〈東洋〉と呼ぶ。それは近代人の忘れ去った精神的次元、宗教体験としては神が「光」や「天使」の形で人間に無媒介的・直観的に顕現する場、形而上学としては離在的の諸知性界と質料界の世界、概念的範疇とは異なる心身性を基準に創造的に働く象徴界である。膨大なイラン・イスラーム研究はこの〈東洋〉が光=知の立ち初める水準として考察された歴史を示す。コルバンはこれを古代ペルシア・ギリシア・否定神学・西洋神秘思想などと比較し、その創造的イマージュ

ユの理解を現代哲学に持ち込んだ。この〈東洋〉理解を古代ペルシア以来の〈東洋哲学〉から同一視するのは問題であるが、コルバンの計画ではイマー



ージュ界再生によるニヒリズムと聖俗主義の回避が目的であり、比較哲学はその回避の責務を負い、方法を提供する意義がある。

【アンリ・コルバンの主な著作】

著書

1. *Histoire de la philosophie islamique.* Paris: Gallimard, 1964.

2. *L'Imagination créatrice dans le soufisme* Flammarion, 1977.
3. *Philosophie iranienne et philosophie compare.* Paris: Buchet/Chastel, 1979.
4. *Corps spirituel et Terre céleste: de l'Iran mazdéen à l'Iran shī'ite.* Paris: Buchet/Chastel, 1979.
5. *L'Alchimie comme art hiératique.* Paris: L'Herne, 1986.

日本訳書

1. アンリ・コルバン『イスラーム哲学史』黒田壽郎・柏木英彦訳、岩波書店、1974年。
2. アンリ・コルバン他『時の現象学〈1〉—エラノス叢書』神谷幹夫訳、平凡社、1990。
3. アンリ・コルバン他『一なるものと多なるもの〈1〉—エラノス叢書』桂芳樹・他訳、平凡社、1991年。



マスウード・ターヘリー
イランの映画監督、脚本家、
研究者、プロデューサー。
1980年生、テヘラン在住。
テヘランのシャヒード・ベヘ
シュティ大学で修士号を取得
し、1996年に映画業界での
キャリアをスタート。これま
で主に、哲学・神秘主義を題
材とした作品を発表している。

主な映画作品

1. *Hissa-yi Raḥmat* / ラフマートの共有. Feature film, 2011.
2. *Sharqī: About Toshihiko Izutsu Japanese philosopher* / 東洋人—井筒俊彦ドキュメンタリー映画. Feature film documentary, 2018.
3. *Mustashriq: About Henry Corbin French philosopher* / 東洋学者—アンリ・コルバンドキュメンタリー映画. Feature film documentary, 2019.
4. *Al-Kāfī: About Muḥammad ibn Ya‘qūb Kulaynī, Shī‘a ḥadīth collector the 10th century* / アル・カーフィ——シーア派の10世紀のハディース学者であるムハンマド・ブン・ヤアクー

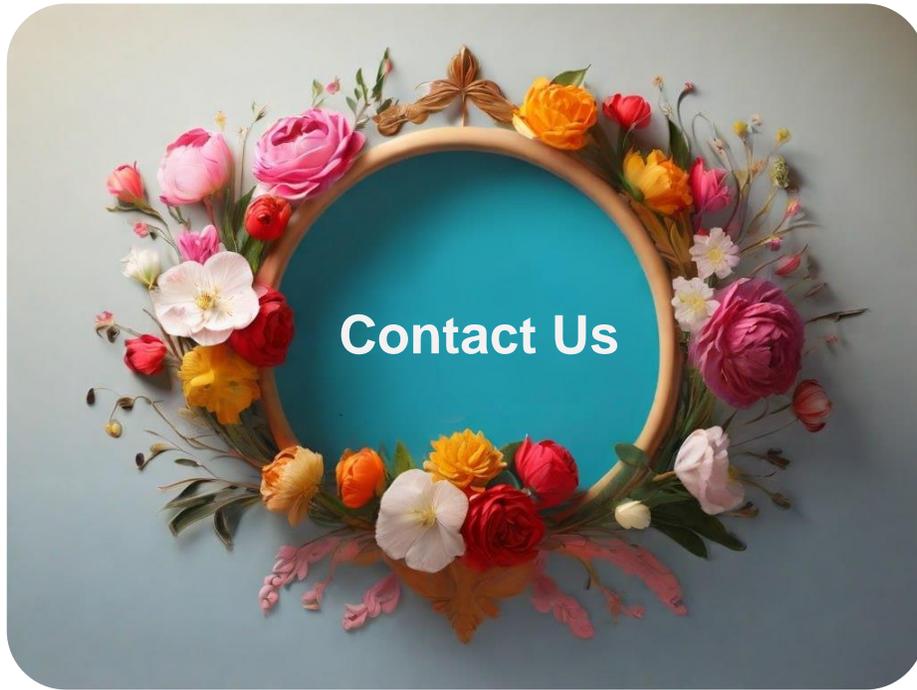
ブ・クライニードキュメンタリー映画. Feature film documentary, 2023.

主なテレビ番組

1. 『イスラームに愛された日本人～知の巨人・井筒俊』、NHK BS1 チャンネル、現地撮影協力、2019
2. 『世界はほしいモノにあふれてる—恋しいペルシャ 美の源流』、NHK 1、現地撮影協力、2020
3. 『所でナンジャこりゃ！？——世界の衝撃映像連発&ヒット商品の秘密を大公開』、テレビ東京、現地撮影協力、2022

著書

A‘llāma: Life and Works of Shamsu‘d-Din Muḥammād Amulī,
Tehran: Nashr-i Nāmak, 1401s/2022.



www.kimiyacast.com



home



contact